

長野市公共交通活性化・再生協議会 自転車活用推進部会 議事概要

- 1 開催日時 令和6年2月20日（火） 午前10時00分～午前11時45分
- 2 開催場所 長野市役所第二庁舎10階 会議室201
- 3 出席者 出席委員7人、事務局職員7人
- 4 次第
 - 1 開 会
 - 2 あいさつ
 - 3 協議事項
 - (1) 長野市自転車活用推進計画 令和5年度実績報告について
 - (2) 自転車の利用環境に関するまちづくりアンケートの結果について
 - (3) 第2次長野市自転車活用推進計画について
 - (4) 自転車ネットワーク計画について
 - 4 その他

【協議事項】

(1) 長野市自転車活用推進計画 令和5年度実績報告について

事務局から「資料1」に基づき説明を行った。

【意見等】

◆A委員

- ・資料1、14ページのサイクルツーリズム公式ホームページ「NAGANO CYCLING」には、どんな情報が載っているのか。

事務局

- ・現在、レベルに合わせたモデルコースの情報を中心に掲載されている。その他にもサイクリストが使いやすい宿泊施設の情報や、タイヤの空気入れなどの設置場所の情報が掲載されている。
- ・コースに関しては、スマートフォンにダウンロードができ、コースを走りながら確認できるものになっている。

◆A委員

- ・ルート上の気軽に食べられるおいしいものがある場所や花の見所など、そういった情報は、サイクリストとしては魅力に感じる。
- ・ヘルメットの着用は、努力義務化されたときはとても着用率が高いように見えた。その後夏頃になったら暑さのせいなのか、着用している人が減ったように感じる。ヘルメット購入補助の申請は、それなりに件数が出ているようなので、引き続き啓発活動をお願いしたい。

(2) 自転車の利用環境に関するまちづくりアンケートの結果について

事務局から「資料 2」に基づき説明を行った。

(引き続き説明)

(3) 第 2 次長野市自転車活用推進計画について

事務局から「資料 3」に基づき説明を行った。

【意見等】

◆D 委員

- ・自転車の保有率が下がっているが、この理由についてはアンケートで聞いているのか。

事務局

- ・今回のアンケートでは理由までは聞いていない。

◆D 委員

- ・利用している人も減少しているようだが、保有率も含めてその理由を聞くようにすると、なぜそのような状況になったのか、市民の声を拾える。次回アンケートの際には、理由もあわせて聞くとよい。
- ・保有率や利用率の減少は、ヘルメットの努力義務化や車道を走らないといけないなどの理由も絡んでいるのでは。整備や安全の事業もちろん大事だが、もっと爽やかさ、楽しさをアピールできれば。

◆B 委員

- ・資料 2、21 ページのキックボードだが、高齢者はアンケート結果にもあるように知らない人が多い。高齢者の安全教室などで、キックボードなど新しい情報の啓発は必要。乗る人は理解していても、高齢者は理解していないと思う。乗っていない人、歩行者への理解を深めてほしい。

事務局

- ・市内ではアンケートの結果どおり、まだそれほど利用はされていないようだが、キックボードの法改正は済んでおり、これから歩道を走るキックボードが増える可能性もある。ルールを理解は必要。第 2 次の計画には反映させていく。

◆A 委員

- ・長野では見かけないが、東京ではキックボードをととてもよく見かける。啓発は必要。計画にぜひ反映させてほしい。

- 50代の自転車利用が減っている。健康にいいということが伝わっていない。通勤での利用が減っているが、レジャースポーツが増えているのはスポーツバイクなどの人気もあるように思う。長く使えるいい自転車に乗ると魅力に気付くと思うが、性能が悪い自転車ではなかなか長く乗ってもらうのは難しい。スポーツバイク用の計画とするのか、いわゆるママチャリ用の計画とするのかで方向が変わってくる。どのような方向で計画を進めるか検討が必要。
- 自転車の保有や利用率が減った分は自動車になっているのではないか。上位計画でも過度な自動車依存からの脱却を図っている。ガソリンの高騰や環境問題などで、自動車からの脱却を図るには、公共交通機関も有効だが、バスの運転手不足もあり公共交通も難しくなっている。自転車でつなぐしかないと感じている。3kmまでといわず、5kmまでの人が自転車に乗ってくれるとよい。スポーツバイクならもっと長くいける。

◆ B委員

- 高齢者は、バスが中心でなかなか自転車利用は難しくなる。

◆ A委員

- 高齢者は難しいので、40～50代での乗り換えが必要。

◆ C委員

- 資料3のキャッチフレーズのところ、自転車の価格高騰などが理由で「家計にやさしい」がなじまないとあるが、自転車が高くなったからではない。ガソリンも高くなっている。その高いガソリンでたった1～2kmを車で走るより、環境の面からも自転車の方がいいはず。「家計に優しい」を削ってしまったら、「自然」「健康」だけで、他にどんなことをキャッチフレーズにするのか疑問。
- 自転車は道路を走れば車から嫌がられ、歩道を走れば歩行者から嫌がられ、肩身が狭くなっている。自転車だけが走れるような専用の道路の整備は必要である。
- 今回の保有率、利用率の低下はコロナ禍を挟んだことで、テレワークなどで1～2年自転車を使わなくなれば、自転車のメンテナンスをしなくなって、通常の生活に戻ってもすぐには自転車に乗れないという結果なのでは。自転車でどう走ってもらうかを考えて計画を立てる必要がある。

事務局

- 「家計に優しい」がなじまないという件では、確かにガソリンに比べれば自転車は安い、今、ホームセンターでも1万円の自転車はほぼない状態。自転車は安いから気軽に乗れるという感覚があるのではないかと思うが、急激な物価高で自転車も

思っているより高い乗り物になっている。

- ・放置自転車のリサイクルでいいので、安い自転車がないかという問合せをよくいただく。そういった人は自転車を1万円未満で探していることが多い。そういうところもあり、これから先の計画のキャッチフレーズには、「家計に優しい」がなじまなくなっている、という提案をさせていただいた。
- ・第2次のキャッチフレーズを考えるにあたっては、自転車から家計をイメージさせるより、先ほど委員から楽しいイメージの提案もあったので、観光やスポーツなどをイメージした方向も検討したい。

◆C委員

- ・自然を楽しみながら、などもいいのでは。颯爽と走るイメージをPRできたら。

◆D委員

- ・先ほど放置自転車のリサイクルの話が出たが、放置された自転車を整備して売っているということか。売っているのであれば、いくらで売っているのか。

事務局

- ・市営自転車駐車場での放置自転車撤去作業で回収した自転車のうち、引取りされなかった自転車を、登録いただいている自転車店に購入してもらい、整備をした上で「リサイクル自転車」として販売している。販売までを自転車店で担っていただいており、販売価格は今年度1万円を上限としている。

◆A委員

- ・通勤通学で使ってもらえるには、企業に対しての働きかけも大事。基本的に自動車通勤を認めないなどの推進も必要では。市役所はすでに自動車通勤は基本認めていないと思う。企業に対する働きかけも考えた方がいい。
- ・道路や駐輪場の整備だけでは、自転車を使ってもらうことには繋がらない。広い目を持って考えていく必要がある。

(4) 自転車ネットワーク計画について

事務局から「資料4」に基づき説明を行った。

【意見等】

◆E委員

- ・国道18号と、長野東バイパス双方の区間に着色されているが、どこを自転車に通ってもらいたいというイメージはあるか。

事務局

- ・国道18号については、車道の路肩を車道混在型で通行できないかと考えている。長野東バイパスは、現在が仮の歩道と聞いているので整備が完成すれば、歩道を自転車に通行させることも可能かと思う。現在の状態であればやはり車道部分を通行せざるを得ない。

◆E委員

- ・国道18号はなんとか4車線化している状況で、路側帯がほとんどないため、そこに自転車も通行するとなると安全的にいかがか。
- ・村山北交差点は須坂方面に行くには車は3車線の真ん中の車線に行くことになるが、自転車は須坂方面に行くのにどう誘導するのか。

◆F委員

- ・自転車は軽車両なので、真ん中の車道は通行できない。自転車専用道の整備が必要。

◆E委員

- ・今の国道18号には、専用道を通らせるスペースがない。

◆F委員

- ・自転車通行可歩道は実態としてあるが、それありきでの整備は避けてほしい。

◆A委員

- ・大型車が通るので、この国道を自転車で走るのは怖い。ネットワーク路線は、自転車通行可歩道も多いが、自転車利用者も歩行者もどこを通行するのか認識されていない。ちゃんと利用者にわかるように、これからの路線は考えてほしい。

事務局

- ・自転車利用者が安全で利用できるよう、次回の計画では案内標識などで啓発ができるよう考えていきたい。

【4 その他】

次回の部会は来年度5月頃の開催予定。令和6年度の事業計画の説明にあわせ、引き続き第2次計画策定についてご協議いただく予定。

午前11時45分終了